

CMSC帯広 小林康弘選手

CONGRATULATION!

全日本ラリー 第1部門 Bクラス シリーズチャンピオン決定! ラリーアート・ドライバー・オブ・ザ・イヤー受賞!



シリーズチャンピオンが決定した小林選手の走り(第9戦)。

'97年の全日本ラリー最終戦「CMSCラリーハイランドマスターズ」は、10月18～19日、岐阜県「モデウス飛騨位山スノーパーク」をスタート・ゴールとする3ステージに、60台が参加して行われました。総距離は約350km、SSは9本の計約33km。

Bクラスの主カマシン・ミラージュは向かうところ敵なしの31連勝中。これまでミラージュ同士の激しい優勝争いが繰り広げられてきました。しかし今回はライバル、トヨタ・カローラが終始ミラージュとのトップ争いに加わり、息を呑む接戦となりました。

第1ステージではCMSC道北・鎌田豊選手がトップ。第2ステージではカローラの森選手が代わってトップに立ち、ミラージュ、カローラ入り交じっての激しい戦いとなります。そして、最終ステージ。最終SSでトップタイムを叩き出したCMSC愛知・松井孝夫選手が、見事、逆転優勝。松井選手は今季2勝目で最終戦を飾り、ミラージュの連勝

記録も"32"となりました。

シリーズポイントでは、第6戦までに優勝と2位を2回ずつ獲得したCMSC帯広・小林康弘選手が見事逃げ切り、シリーズチャンピオンに輝きました。シリーズ本格参戦3年目の'97年、長年住み慣れた北海道を離れ、長野へ移り住んだ小林選手。区切りの年に相応しい活躍で、ラリーアート・ドライバー・オブ・ザ・イヤーの受賞も決定しました。Bクラスは以下2位から8位までをミラージュ勢が独占。うち、CMSCクラブ員が4人を占める大活躍でした。'98年も激しい戦いになりそうです。



ダブル受賞に感謝しています。
CMSC帯広 **glad!**
小林康弘

今シーズンを振り返りますと、前半の好調が、後半3戦も続けば更に良かったのですが、やはり全日本タイトルを取るとなると、かなりのプレッシャーとなりました。今年なによりも嬉しかったのは、第6戦、地元北海道でのダートイベント初優勝でした。プライベート1年目にしてこのような結果が出せるとは、正直思ってもいませんでした。全日本ラリーBクラスシリーズチャンプとラリーアート・ドライバー・オブ・ザ・イヤー受賞とで二重の喜びです。来シーズンも、より一層の努力をしていきたいと思ひます。

CMSC群馬 山口利久

ラリーオーストラリア、メカニック参戦記

10月30日～11月2日に行われた'97WRC第13戦ラリーオーストラリアに、三菱ランサーディーラーチームのメカニックとして参加してきました。現地ではRAA(ラリーオートオーストラリア)と合同で篠塚建次郎選手とエド・オーディンスキー選手の2台をサポートし、事前の車作りからラリー本番中の作業まで、ありとあらゆる事をさせていただき、とても素晴らしい経験になりました。

ラリー3日目の篠塚選手の体調不良からの棄権はとても残念でしたが、RAAのオーディンスキー選手を最後まで走り切らせる事ができ、初のGrAでの参戦でオーストラリアドライバーでは1位、総合でも6位と大活躍。RAAのスタッフら皆で完走した喜びを分かち合うことができました。

ラリー途中ではグラベルカー(ラリー車の先を走り、天候、路面状況などを伝える車。ランサーEvoIII)から「コース途中でタイヤが折れて止まっているのですぐに来てくれ」という連絡を受け、サザンクロスラリーで有名なダグ・シュワート氏と共に出張修理に行くというハプニング?もありました。この事は今思い返すと、RAAのチーフメカニックが私の技術力を認めてくれ、大勢のスタッフの中から私を行かせてくれたのだと思います。とても凄い事だったと改めて感じるとともに、自分にも自信を持つことができました。

今回のラリーを通じて、一つの事を皆で力を合わせ乗り越える事の素晴らしさを感じました。初めはこんなに大事な部分までさわらせてもらって良いのだろうかという戸

三菱ランサーディーラーチーム 2週間の素晴らしい経験。

惑いもありましたが、どんどん作業を進めて行くうちに、私達の方でラリー車を作り、皆で協力し、何が何でもゴールさせるのだという気持ちになってきました。ドライバーとも強い絆で結ばれ、私達を信用して全開で走り、ゴールしてくれた時には、何ものにも代えられない幸せな気持ちで一杯でした。GrAカーの構造等とても勉強になり、とにかく日常業務では経験する事のない、様々な事があった2週間でした。

最後になりましたが、このようなチャンスを与えて下さった皆様、この場をお借りして御礼申し上げます。また、CMSC会員で三菱ディーラーのメカニックの方がおりましたら、'98年度は是非チャレンジしてみてください。必ず素晴らしい体験ができると思います。本当に楽しい2週間でした。



右、篠塚建次郎選手とボブ・ライリーディレクターの前で緊迫感がうかがえる山口氏のメカニック作業。左上、篠塚建次郎選手の走り。左下、オーディンスキー選手の走り。

CMSC山形 赤羽政幸

ラリーインドネシア参戦記

9月19～21日の3日間、インドネシア第2の都市メダンを中心に開催された'97WRC第11戦ラリーインドネシアに参戦しました。9月9日に現地へ入り、レッキも多少のトラブルはあったものの割りと順調に消化する事ができ、本番に臨みました。今回はマネージャー、サービスがニュージーランド人、オーストラリア人の混成チームだったのですが、昨年のオーストラリアラリー以来の仲間なので非常にいいチームワークでラリーを楽しむことができました。

ラリー初日は総合15位、クラス3位。途中から雨になってしまい、アイスバーンのように滑る路面はリタイヤ続出で、サバイバルラリーになってしまいました。

サバイバルラリーでクラス5位!

2日目はバンクで4分ほどタイムロスをしてしまい、クラス6位まで後退。何とか一つでも順位を上げたいと頑張った最終日でしたが、またもやバンクに見舞われ2分ほど遅れてしまいました。そこで、無理をせず完走することに気持ちを切り替え、総合15位、グループN5位という、とてもよい成績でフィニッシュすることができました。表彰式ではプライベートで最上位ということでトロフィーまで頂きました。

ここまで応援して下さった、たくさんのスポンサーの皆様には、ただただ感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。



やった! クラス5位。力を合わせた結果ですね。

CMSC大阪 岩下利勝

ラリーオーストラリア参戦記

'97WRC第13戦ラリーオーストラリアにはドライバーとして2年目のエントリーとなりました。昨年は雨が降り、路面はスリッピーで大変悩まされました。しかし今年は10月30日～11月2日と、昨年より1ヶ月も遅い開催の為、路面が大変乾燥し、すさまじいほどに積もったダストが舞い、それと重なる西日に大変苦戦しました。

まずレッキでは小動物を避け損ね、持ち込んだレッキ車を壊してしまいました。翌日借りたレンタカーは最悪で、エンストばかりしてレッキどころではありませんでした。

初日はバースト、スピン2回、挙げ句の果てにフロント

苦戦しつつも無事、完走。

ガラスまで割ってしまいました。2日目は砂ぼこりと西日で前が良く見えずに何度もストップせざるを得ませんでした。3日目はSS23でコースアウトしましたが運良くコース復帰でき、無事フィニッシュできました。

レッキからいろいろと苦労が絶えませんでした。総合34位、グループN16位という結果が出て大変嬉しく思っています。これもいろいろとご協力くださった皆様のおかげだと、感謝しております。来年もチャンスがあれば、ぜひ参加したいと思っています。



完走に思わずランサーイの岩下選手。